

## 業績目録(平成30年)

### 教室名 疼痛・緩和医療学教室

#### (A-a) 英文著書

該当なし

#### (A-b) 和文著書

1. 上野博司, 小杉志都子, 西木戸修. 薬物療法. 慢性疼痛治療ガイドライン, 慢性疼痛治療ガイドライン作成ワーキンググループ編. 真興交易医書出版部, 東京: pp29-74, 2018.
2. 上野博司. 抗うつ薬. 医学のあゆみBOOKS ペインクリニック診療38のエッセンス(細川豊史編), 東京: pp80-84, 医歯薬出版株式会社, 2018.
3. 深澤圭太. CQ25 星状神経節ブロックは慢性疼痛治療に有効か?. 東京: P84-86, 慢性疼痛治療ガイドライン, 真興交易, 2018.
4. 深澤圭太. CQ26 交感神経節ブロックは慢性疼痛治療に有効か?. 東京: P86-89, 慢性疼痛治療ガイドライン, 真興交易, 2018.
5. 深澤圭太. CQ30 スプリングコイルカテーテル、エピドラスコピーによる治療は慢性疼痛治療に有効か?. 東京: pp98-101, 慢性疼痛治療ガイドライン, 真興交易, 2018.
6. 大西佳子, 細川豊史. 緩和医療学の変遷と非がん疾患の緩和ケア. 実践から識る! 心不全緩和ケアチームの作り方. (大石醒吾他 編), 南山堂, 東京: pp2-7, 2018.
7. 権哲, 細川豊史. 医局で取り組んでいる男女共同参画—京都府立医科大学疼痛・緩和ケア医療学教室の場合—. ペインクリニック vol139, 2. 真興交易, 東京: pp147-52, 2018. 2.
8. 山代亜紀子, 細川豊史. がん疼痛治療の長期化とその問題点. 医学のあゆみBOOKS ペインクリニック診療 38のエッセンス, pp180-183, 医歯薬出版, 2018. 7.
9. 波多野貴彦. 慢性疼痛治療ガイドライン. 慢性疼痛治療ガイドライン作成ワーキンググループ編, 真興交易, 東京: pp108-109, 2018.
10. 志真泰夫, 恒藤暁, 細川豊史, 宮下光令, 山崎章郎, 田村恵子編集. ホスピス緩和ケア白書2018 がん対策基本法—これまでの10年 これからの10年—. 青梅社, 東京, 2018. 4. 7.

(B-a) 英文総説

該当なし

(B-b) 和文総説

1. 天谷文昌, 松田愛, 山口陽輔, 山北俊介, 松岡豊, 山下理比路, 堀井靖彦, 竹村瞳. 遷延性術後痛のメカニズム 末梢神経から中枢神経まで. 麻酔 67: 242-47, 2018.
2. 上野博司. がん患者の非がん性疼痛. 月刊薬事 60 (5) : 850-854, 2018.
3. 権哲, 細川豊史. お互いのワーキングバランスを尊重する医局づくり 3. 医局で取り組んでいる男女共同作業—京都府立医科大学疼痛・緩和医療学教室の場合—. ペインクリニック 39(2) : 2147-15, 2018
4. 山代亜紀子, 細川豊史. 非がん性慢性疼痛治療における医療用麻薬の適正使用と乱用防止. ファルマシア 54 (6) : 538-540, 2018.
5. 細川豊史. 麻酔科医にとっての緩和ケア. 麻酔 67 巻増刊号:126-135, 2018.
6. 原田秋穂, 細川豊史. キャッチ! オンコロ・トレンド: 終末期がん患者における鎮静の“今”. YORi-SOU がんナーシング 8 (3) : 272-273, 2018.

(C-a) 英文原著

1. Yamaguchi Y, Oh-Hashi K, Matsuoka Y, Takemura H, Yamakita S, Matsuda M, Sawa T, Amaya F. Endoplasmic reticulum stress in the dorsal root ganglion contributes to the development of pain hypersensitivity after nerve injury. *Neuroscience* 394: 288-299, 2018. (IF=3.244)
2. Amaya F. A good beginning makes a good ending: association between acute pain trajectory and chronic postsurgical pain. *J Anesth* 32: 789-791, 2018. (IF=1.462)
3. Takemura H, Fujita D, Matsuda M, Fujita K, Sakaguchi M, Amaya F. Peripheral nerve block combined with general anesthesia for lower extremity amputation in hemodialysis patients: case series. *JA Clinical Reports* 4: 77, 2018.
4. Okamoto A, Yamasaki M, Yokota I, Mori M, Matsuda M, Yamaguchi Y, Yamakita S, Ueno H, Sawa T, Taguchi T, Hosokawa T, Amaya F. Classification of acute pain trajectory after breast cancer surgery identifies patients at risk for persistent pain: a prospective observational study. *J Pain Res* 11: 2197-206, 2018. (IF=2.236)
5. Yamakita S, Horii Y, Takemura H, Matsuoka Y, Yamashita A, Yamaguchi Y, Matsuda M, Sawa T, Amaya F. Synergistic activation of ERK1/2 between

- A-fiber neurons and glial cells in the DRG contributes to pain hypersensitivity after tissue injury. *Mol Pain* 14, 2018. (IF=2.746)
6. Sugiyama Y, Iida H, Amaya F, Matsuo K, Matsuoka Y, Kojima K, Matsuno F, Hamaguchi T, Iseki M, Yamaguchi K, Takahashi Y, Hara A, Sugasawa Y, Kawamata M, Tanaka S, Inagaki Y, Otsuki A, Yamazaki M, Ito H. Prevalence of chronic postsurgical pain after thoracotomy and total knee arthroplasty: a retrospective multicenter study in Japan (Japanese Study Group of Subacute Postoperative Pain). *J Anesth* 32: 434-38, 2018. (IF=1.462)
  7. Oh-Hashi K, Sugiura N, Amaya F, Isobe KI, Hirata Y. Functional validation of ATF4 and GADD34 in Neuro2a cells by CRISPR/Cas9-mediated genome editing. *Mol Cell Biochem* 440: 65-75, 2018. (IF=2.884)
  8. Norisada J, Fujimura K, Amaya F, Kohno H, Hirata Y, Oh-Hashi K. Application of NanoBiT for monitoring dimerization of the Null Hong Kong variant of alpha-1-Antitrypsin, NHK, in living cells. *Mol Biotechnol* 60: 539-49, 2018. (IF=1.712)
  9. Kanbayashi Y, Ishikawa T, Kanazawa M, Nakajima Y, Tabuchi Y, Kawano R, Yoshioka T, Yoshida N, Hosokawa T, Takayama K, Taguchi T. Predictive factors for the development of irinotecan-related cholinergic syndrome using ordered logistic regression analysis. *Med Oncol* 35: 82, 2018. (IF=3.252)

(C-b) 和文原著

1. 細川豊史. (厚生労働省がん対策推進協議会 委員) 厚生労働省 第三期がん対策推進基本計画. 2018. 3.
2. 小川隆, 高橋義信, 山中巧, 天谷文昌, 佐和貞治, 酒井晃二, 山田恵, 上野大介, 阿部能成, 近藤正樹, 水野敏樹, 橋本直哉. 覚醒下手術を用いて摘出した機能領域近傍グリオーマの 2 例. *京都府立医科大学雑誌*. 127: 451-58, 2018.

(D) 学会発表

I) 特別講演、教育講演等

1. 細川豊史. 教育講演; 緩和ケアにおける薬剤師の重要な役割—オピオイド鎮痛薬の正しい使い方を中心に—. 近畿薬剤師合同学術大会, 2018. 2. 4, 京都.

2. 上野博司. 慢性疼痛治療におけるオピオイド鎮痛薬の位置づけ～最近のガイドラインの動向を中心に～. イブニングセミナー. 第 47 回日本慢性疼痛学会, 2018. 2. 16, 大阪.
3. 細川豊史. 特別講演; 緩和ケアとチーム医療そして緩和ケア病棟の運営について. 第 1 回栃木南がん・緩和ケア懇話会, 2018. 5. 11, 栃木.
4. 細川豊史. 招請講演; 麻酔科医にとっての緩和ケア. 日本麻酔科学会第 55 回学術集会, 2018. 5. 18, 横浜.
5. Hosokawa T. Health Care System & Relations of a Doctor and the patients in Japan. 中国疼痛医学大会, 2018. 7. 14, Zhengzhou, China.
6. Hosokawa T. The History and Present Status of Palliative Care Medicine in Japan. The 15th Asian Australasian Congress of Anaesthesiologists, 2018. 11. 3, Beijing, China.
7. 細川豊史. 基調講演; これからの疼痛治療—All Japan で未来に向かう—. 第 11 回日本運動器疼痛学会, 2018. 12. 1, 滋賀.
8. 細川豊史. 教育講演 7; プライマリーケアに役立つ痛みのお話—正しい疼痛治療のために—. 第 32 回日本プライマリーケア学会近畿地方会, 2018. 12. 2, 京都.
9. 上野博司. がん疼痛に対する各種オピオイド鎮痛薬の使い分け～ヒドロモルフォンをどう使うか～. ランチョンセミナー; 第 2 回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会, 2018. 5. 27, 京都.
10. 上野博司. がん疼痛に対する各種オピオイド鎮痛薬の特性と使用法. 日本専門医機構認定麻酔科領域講習 9; 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018. 7. 19, 東京.
11. 上野博司. 慢性疼痛治療における薬物療法の位置づけ～日本発の慢性疼痛治療ガイドラインを読み解く～. ランチョンセミナー15; 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018. 7. 21, 東京.
12. 上野博司. 慢性疼痛に対する薬物治療戦略～アセトアミノフェンの位置づけを考える～. ランチョンセミナー5; 第 11 回日本運動器疼痛学会, 2018. 12. 2, 大津.

## II) シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等

1. 天谷文昌. 神経障害性疼痛 定義や概念を再確認する. シンポジウム; ニューロパシクペインへの挑戦. 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018, 東京.

2. 上野博司. 緩和ケアにおけるヒドロモルフォンの位置づけ. シンポジウム 8; 新規オピオイド鎮痛薬の特徴と使い方. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会, 2018. 6. 15, 神戸.
3. 上野博司. 各種低出力レーザー治療が著効した症例についての検討. シンポジウム S2 「ペインクリニック領域」; 第 30 回日本レーザー治療学会, 2018. 6. 23, 東京.
4. 深澤圭太. 頸部神経根ブロック (経椎間孔的硬膜外注入), 頸椎椎間関節ブロック. シンポジウム 6 エコー下神経ブロック; 安全, 確実な方法を伝授します. 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018. 7. 20, 東京.
5. 大西佳子, 細川豊史. オンコロジーエマージェンシーの診断. 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018. 7. 20, 東京.
6. 権哲, 深澤圭太. 薬物療法と併用した神経ブロック治療ストラテジー. 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 2018. 7. 20, 東京.
7. 細川豊史. 痛みでお悩みのあなたのために. 洛和会市民講座, 2018. 11. 21, 京都.

### Ⅲ) 国際学会における一般発表

1. Matsuoka Y, Amaya F. NLRP2 inflammasome contributes to the ceramide-induced hyperalgesia. 17th World Congress on Pain. 2018 September 12-16; Boston, USA.
2. Yamashita A, Amaya F. Dysregulation of p53/parkin pathway involves methylglyoxal induced pain hypersensitivity. 17th World Congress on Pain. 2018 September 12-16; Boston, USA.
3. Horii Y, Amaya F. Peripheral mechanism mediated by p38MAPK phosphorylation involves in the remifentanil induced immediate hyperalgesia. 17th World Congress on Pain. 2018 September 12-16; Boston, USA.
4. Takemura H, Amaya F. G protein-coupled receptor kinase 2 contributes resolution of acute pain hypersensitivity after the tissue injury. 17th World Congress on Pain. 2018 September 12-16; Boston, USA.

### (E) 研究助成 (競争的研究助成金)

総額 8,580 千円

公的助成

代表（総額）・小計 8,450 千円

1. 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽） 平成 29～31 年度  
アレスチンと痛覚受容体の機能連関に注目した新たな慢性痛発症メカニズムの解析の研究 天谷文昌 助成金額 2,080 千円
2. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 平成 30～32 年度  
Parkin とミトコンドリア機能不全に着目した慢性痛の新規治療戦略の研究 天谷文昌 助成金額 6,370 千円

分担・小計 130 千円

1. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)  
脾臓由来 M1 型及び M2 型単球系細胞を介した神経障害性疼痛発症のメカニズム解明の研究（代表者 柴崎雅志） 助成金額 50 千円（総額 4,550 千円）
2. 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）  
ゲノム編集技術による新規ストレス制御機構の探索と老年病治療への応用の研究（代表者 大橋憲太郎） 助成金額 30 千円（総額 6,500 千円）
3. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)  
緑膿菌病原性抗原の血清抗体価大規模疫学調査と抗緑膿菌ガンマグロブリン製剤試作の研究（代表者 佐和貞治） 助成金額 50 千円（総額 14,280 千円）